

令和7年度
外部講師を活用したがん教育等
現代的な健康課題理解増進事業

群馬県立桐生工業高等学校における 「がん教育」の実践

群馬県立桐生工業高等学校
教諭 内田 昇

1

群馬県立桐生工業高等学校の紹介
全校生徒 447名
学級数 12クラス
(機械科1・2、建設科、創造技術科)



2

がん教育の目標

- ・がんについて正しく理解できるようにする。
- ・健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする。

学校におけるがん教育の基本的な考え方

がん教育が健康教育の一環として行われることから、保健体育科を中心に学校の実情に応じて教育活動全体を通じて適切に行うことが大切である。また、がんに関する科学的根拠に基づいた知識などの専門的な内容を含むがん教育を進めるに当たっては、学校医やがんの専門医等の外部講師の参加・協力を推進するなど多様な指導方法の工夫を行うよう配慮する。

群馬県教育委員会「がん教育の手引き（令和4年3月）」

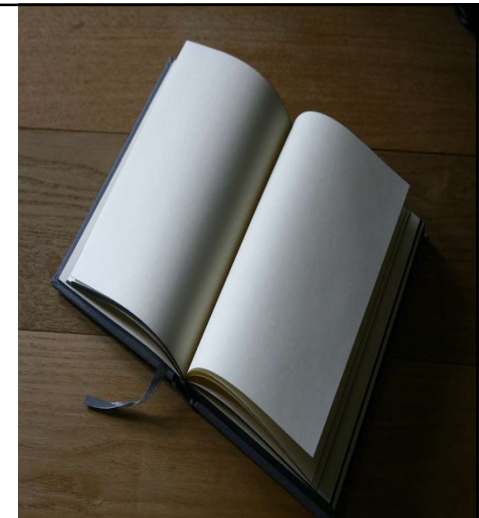
⇒○「がんに対する正しい知識」の習得と予防法

- 健康や命の大切さ
- 自分の考えを表現、他者の考えを傾聴、自分の考えの見直し

3

目次

1. 指導計画
2. 事前アンケート結果
(実態の把握)
3. 公開授業
4. 授業の流れ
5. がん教育講演会
6. 学校保健委員会による発表
7. がん標語コンクール
8. 事後アンケート結果
(生徒の変容)
9. まとめ



4

1. 指導計画

- 第1次 「がんの原因と予防」（公開授業）
 第2次 講演「がん治療における緩和ケア
 がん患者への理解と共生」
 講師：平林久幸先生（本校学校医）
 第3次 「がん検診の受診率の現状」
 第4次 「がんの治療と回復」

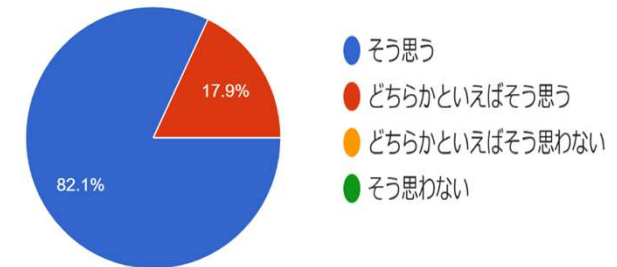
※現代高等保健体育（大修館書店）を活用

5

2-1. 事前アンケート結果（実態の把握）

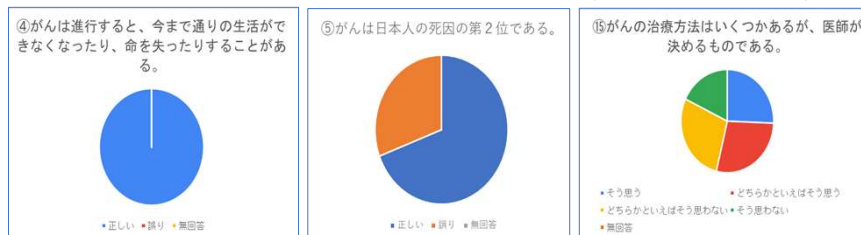
①がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。

39件の回答



6

2-2. 事前アンケート結果（実態の把握）



○本校における「がん教育」の実態

アンケート結果より、「がん」という病気の怖さはイメージできているが、全体の3割が「日本における死因2位」「がんの治療が手術のみ」という認識であった。また、約半数が「治療は医師が決める」と思っていた。**がんに対する基礎知識が浅いという現状**がみられた。

7

3. 公開授業

日時 令和7年10月15日（水）
 第5校時（13:35～14:20）
 対象クラス 1年G組 40名
 電気コース20名
 染織デザインコース20名
 単元名 現代社会と健康
 「がんの原因と予防」



本時の目標し、がんを予防するための適切な手段（一次予防及び二次予防）を理解し、

話し合い活動を通して、がんを予防することを考えることができる。
 また、我が国におけるがんに関する現状について理解を深める。

8

4. 授業の流れ

<授業前の配慮事項> ※養護教諭と連携

・授業中気分が悪くなったら退席しても良い事を伝える。

① 「がん」と聞いてイメージすることを書く
(学習前の自分のイメージを確認する)

② 活動① 知識の確認

- ・日本における死亡原因1位ががんであることを確認
- ・がんについて理解する(がん化する仕組み等)
- ・がんの原因について考える

9

③ 動画視聴

がん患者や家族の思いを感じ取り、がんを予防することの重要性を理解する。

④ 活動② 知識の活用(グループワーク等)

がんを予防するための方法を考える。

自分の考え→周囲と意見交換(グループワーク)

→考えの見直し

一次予防及び二次予防を理解する。

⑤ 本時のまとめ

がん予防に対する行動目標を立てる。

→発表

10

がんに対するイメージ

怖い病気

辛い

死ぬ

絶対に治らない

治療が難しい

たばこ

→ がんに対する正しい知識を身に付けることが大事

11

がん化の仕組み

出典：前橋市健康部健康増進課より

正常な細胞



異常な細胞ができる



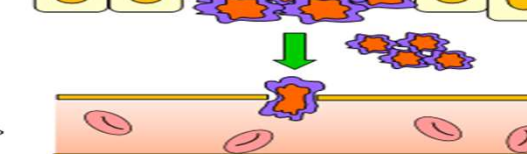
異常な細胞が増える



異常な細胞が広がる



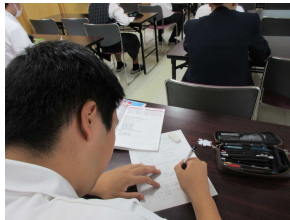
血管に突って
さらにか広がる



12

生徒が書き出した予防法

- 生活習慣を整える
- 定期的に検診を受ける
- バランスの良い食事をする
- たばこを吸わない
- がんに対して正しい知識をもつ
- 適度な運動を行う



13

グループワークの様子



14



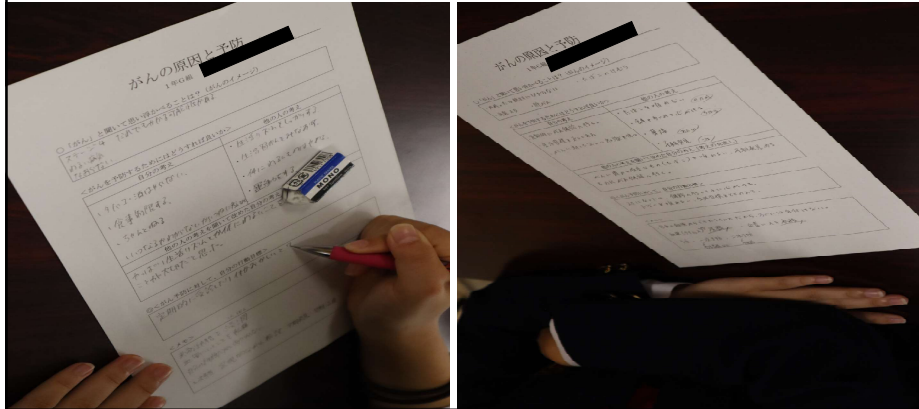
15

がん予防のための行動目標

- 生活習慣を見直し、減塩を心がけ、適度な運動行っていく。
- 生活習慣を整え、一次予防をしっかりと行う。また、定期的ながん検診に行き、二次予防を行っていく。
- 生活リズムを整えて、体の調子がおかしいと思ったらすぐに病院へ行く。
- 文化部なので運動部と比べると運動量が少ないので、適度な運動を生活習慣にしていける。

16

学習プリント



17

5. がん教育講演会

講師：わたらせりバーサイドクリニック

院長 平林久幸先生（学校医）

講演内容

- ・「がん患者に対する緩和ケア」
- ・「がん患者への理解と共生」
- ・「がんの種類とその経過」
- ・「がん患者の生活の質」
- ・「がんの治療法」等

多岐にわたりご講演頂きました。

※文部科学省スライド教材を活用



18

緩和ケアとは

患者とその家族に対し
病気に伴う体と心の痛み・
つらさを和らげるための支援



19



なぜ緩和ケアが必要なのだろう

緩和ケアがあるときとないときの
体や心の状態を想像して考えよう

痛みによる
気力や体力の消耗を
防ぎ治療に取り組む
力がわく。

治療中も
自分らしい生活を
続けることが
できる。



20



がん患者は何を望み、
何を求めているのだろう

事例 1

- ・ 進行したがんとなり、抗がん剤治療を続けている。
- ・ 仕事を続けるため、通院しながらできる治療方法を選んだ。
- ・ 子供に病気のことをどう話すか悩んでいるが、今は家族との時間を何よりも大切に過ごしたいと思っている。



21



がん患者は何を望み、
何を求めているのだろう

事例 2

- ・ 乳がんで胸に大きな傷が残り、自信を失って閉じこもりがちになっていた。
- ・ 患者の会に入って同じ乳がんの仲間と出会い、貸切で温泉に入ることができるようになった。好きだった旅行を楽しむことができるようになった。
- ・ これからも生き生きと自分らしく生きたいと思っている。



22

がん患者の「生活の質」

一人一人の生き方が
異なるように、
がんへの向き合い方も
人それぞれ



自分らしく生きられるよう
生活の質 (クオリティ・オブ・ライフ)
の維持・向上が大切

23

がん教育講演会の生徒感想

問 1：一番心に残っていることは？

- がんの種類がたくさんあり、誰でも気をつけていてもなってしまう可能性があるということ。
 - 今後医療が発達し、標準治療ではなく、化学療法や放射線療法のみでもがんを治せる様になるかもしれないこと。
 - がん検診の重要性、そして早期発見の重要性が一番心に残りました。
 - がんは元は自分の細胞だということ。
 - がんになっても生活の質を上げることはできるということ。
- e t c . . .

24

がん教育講演会の生徒感想 問2：講演会を聴いた感想は？

○がんになっても様々な治療法があるから助かる可能性があると知った。がんになった人に対する関わり方などを聴いて勉強になった。

○自分や家族もがんになる可能性はあるから、家族への健康診断を勧めるなど、身近なところから予防を始めていきたい。

○今日学んだ知識を家族にも伝えたいと思った。

○がんによって亡くなる人が一番多いのに、がん検診に行かない人が多くいることに驚きました。

○生活習慣を見直して、がんを予防したいと思った。

e t c . . .

25

6. 学校保健委員会による発表

保健委員が事前アンケートの結果を考察

※アンケート内の問いから、保健委員で相談をし、いくつかピックアップして考察を行った

養護教諭 加藤 亜紗実

26

がん教育に関する 事前アンケートの結果について

～保健委員が考察してみました～



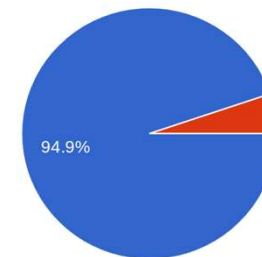
27

⑦早期発見すれば、がんは治りやすい。

39件の回答

● 正しい

● 誤り



早期発見なら完治が望めます



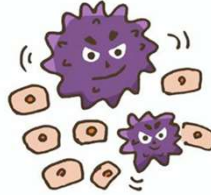
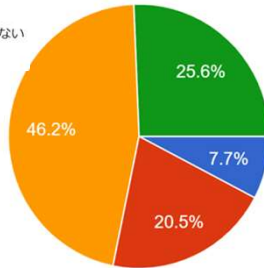
ほとんどの人が早期発見すれば、がんは治りやすいと知っているという事が分かった

28

⑪自分はがんにならないと思う。

39 件の回答

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない



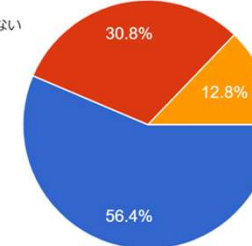
約7割の人が自分はがんになると思っている
ということが分かった

29

⑭がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。

39 件の回答

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない



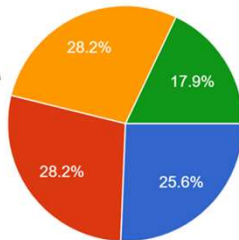
約5割ほどの人しか必ず検診を受けようと思っていないことが分かった

30

⑮がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。

39 件の回答

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない



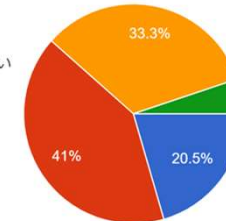
約5割以上の人が、がんの治療方法は医師が決めるもの
だと思っているということが分かった

31

⑯がんになっても生活の質を高めることができる。

39 件の回答

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない



約4割の人ががんになったら生活の質を高めることが
出来ないと思っていることが分かった

32

まとめ

- ✓ ほとんどの人が**早期発見すれば治りやすい**ということを知っていても、全体の約5割ほどの人しか検診を受けられる年齢になっても**検診を受けに行かない**ということが分かった。



誰でも簡単に受けられる検査なら検診に行く人が増えるのではないかと思った。

- ✓ 全体の約5割以上の人のがんの**治療法は医師だけが決めるもの**だと思っていた。
- ✓ 全体の約4割の人ががんになったら**生活の質**を高めることが出来ないと思っていた。



がんに対する**間違った知識**を持ってしまう人が多いので今日のような**講習会**が大切だと思った。

33

7. がん予防標語コンクール

群馬県健康福祉部より

がんによる死亡者を減少させるためには、がん検診による早期発見が非常に重要であり、検診受診率の向上は重要な課題となっています。県民の皆様にごがん検診の重要性を広く知って頂く機会として標語コンクールを実施することとしました。

テーマ「がん検診に行こう！」

応募期間 2025年9月1日～10月31日

34

本校生徒による応募した標語

- がん検診 今日的一步が 未来を守る
- 受けて欲しい あなたを想う 誰かのために
- がん検診 みんなの未来 開かせよう
- がん検診 守ろう自分と 家族の笑顔
- がん予防 未来の自分 助けるよ
- 毎年の 検診大事に 未来つなぐ
- e t c . . .

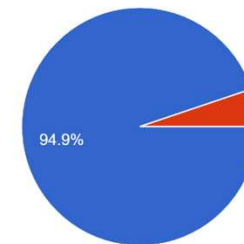


35

8-1. 事後アンケート結果（生徒の変容）

①がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。

39件の回答

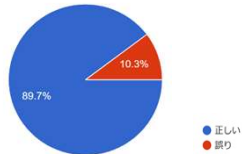


- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

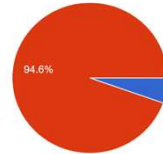
36

8-2. 事前アンケート結果（生徒の変容）

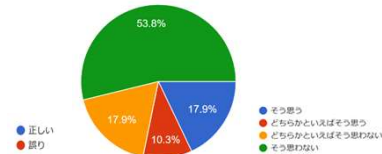
④がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある。



⑤がんは日本人の死因の第2位である。



⑥がんの治療法はいくつかあるが、医師が決めるものである。



○「がん教育」後の生徒の変容

事後アンケート及び生徒の感想から、がんの知識を深めたことにより、「怖い」というイメージは薄れ、治療可能な病気であるという認識をもつことができた。また、がんに対する関心が高まり、家族にも検診を勧める等、予防意識が非常に高まった。

9. まとめ

【成果】

- ・がんの正しい知識を身につけ、がんに対する予防について意識が高まった。
- ・外部講師の活用により、知識の定着やがんに対して考えるきっかけとなり、非常に効果的であった。
- ・アンケート結果から『がんの学習が健康な生活につながるか』という問いに「そう思う」と考える生徒が82.1%から94.9%の増加した。
- ・学校保健委員と連携し、がんについての発表をすることによりがんについて向き合う良い機会となった。

【課題】

- ・生徒の家庭環境の観点から、デリケートな内容であるため、教科書に記載されていることと合わせてどこまで深くしてよいかが課題。
- ・外部指導者との打ち合わせ時間の確保。

37

38

ご清聴ありがとうございました



39